

日本医師アマチュア無線連盟会報

No.73

第37回 MARS(仙台) 総会 報告

MARS会長 JA7AOM 及川 忠人



第37回 MARS 総会を仙台市に於いて4月20~21日に開催することが出来て盛会裡に修了致しましたことをご報告申し上げます。特に、総会受け入れおよび総会進行、エクスカーションまで周到な素晴らしい準備を頂きました JH7QFA 局渡辺孝志先生ならびに JA7CAD 局安田恒人先生他宮城メディカルHAMクラブ会

員諸先生方に心から感謝申し上げる次第です。

総会は渡辺孝志先生の進行で開会の挨拶を頂き、MARS 会長及川忠人 JA7AOM 局より総会挨拶(別紙)を頂きました。ご来賓の挨拶として宮城県医師会長嘉数研二先生の代理として宮城県医師会常任理事登米裕也先生から

お祝いの言葉を頂き、さらに宮城メディカルハムクラブ会長の JA7TKC 局水戸洋一先生より同クラブの活動紹介も合わせ総会参加への歓迎の挨拶と MARS 仙台総会開催の祝辞を頂きました。JA3ASU 局狭山先生が議長に選任され、平成24年度庶務報告は JL1BGP 局井上文正先生により MARS 会員の登録の現状等の詳しいご報告がなされました。続いて平成24年度活動報告が次の順でなされた。MD ネットの活動内容は 3.5MHz 帯は JA1KXT 局相田信男先生が平成24年4月から平成25年3月までの MD ネットの概況を報告した。また 7MHz 帯は JH7QFA 局渡辺孝志先生から一昨年よりコンディションも良く、コンタクト出来なかったのは一月の2回のみであり、各エリアの JH3AEF 局、JR1SJD 局、JH3IBM 局等の支援を得て、スキップ等に対応しスムーズに運営され、新局の参加が認められ嬉しい報告となりました。次に MARS ニュースについては JF3JON 局田中憲児先生から総会后 MARS News の発行が総会報告号になり1号に留まったことが報告された。さらに MARS AWARD については JA1KXT 局相田信男先生から JH3OHO 局宮井彰 OM 一名に発行し賞品として FM トランシーバーの送付が認められた。次に平成24年度の決算報告が JL1BGP 局井上文正先生から説明され、監査報告が JH3GOB 局稲見修先生から成され、決算報告は承認された。終わりに JH3TCC 局家田勝幸先生から MARS Home Page の改訂状況が報告され、現在 HP の内容の充実を図りつつある実態の報告を受け承認した。

次いで議事に移り、平成25年度の事業計画が JA7AOM 局及川忠人先生から提案されて、MD ネットの充実ならびに緊急時ネットの検討

等とコールブックの編集改訂等を含む活動計画が提案され承認された。また平成25年度予算案について JL1BGP 局井上文正先生から提案された。MARS News の事務員謝礼については現状の実費に合わせて支出することが承認された。その他の項目の中で、JH7QFA 局から来年の総会の開催地は九州の JH6IBM 局石井文理先生にお願いする方向で、懇親会にはご出席されることから、その時点でご了解を得たいとの提案があった。また再来年の総会は医学会総会が京都にて開催されることから京都で開催する方向で JA3ASU 局が中心となり総会開催の準備をすることが承認された。これらの報告・議事をもって総会は無事閉会の宣言がなされた。引き続き講演に移ることになった。

総会講演として岩手県医師会副会長の JH7OLB 局 岩動孝先生から「災害時のアマチュア無線の活用と役割」との演題にて約50分の御講演を頂いた。その内容の要旨は次の通りでした。MARS 総会草創期の第1回 MARS 総会(作並温泉)からの歴史的報告が先にあり、当時の懐かしい写真や、先生の御父 JA7DF 局岩動隆一先生の古いシャックや歴史的にはあまり知られて居ない太平洋戦争終結前のコールサイン等が紹介されアマチュア無線草創期の貴重な写真が披露されました。また晩年岩動隆一先生が使用していたシャックや、昭和46年7月30日の全日空機と自衛隊機との衝突事故における非常無線の活躍などの歴史的な災害時のアマチュア無線の活躍についての歴史的な振り返りがなされた。また今回東日本大震災に支援体制として創設された三陸復興ネットワークの経過や、泌尿器科診療所・関連病院に整備されたネットワークの現状が紹介さ

れた。そして、「いつも日常に行われていることでなければ、非常時に行くことが困難である」との大切な原則を強調され、貴重な内容の特別講演を頂くことが出来た。次いで岩手県三陸復興ネットワークの現場での利用活用の状況について JA7AOM 局及川より心のケア支援活動の要旨を合わせて被災地の活動報告が加えられた。被災初動期における三陸ネットワークの活動交信支援の現状が報告され、加えて実際の二年経過した4月の第1土曜日に開催された第69回三陸復興ネットワークの交信記録が録音テープを用いて再生し、その無線通信実況の場面を合わせて報告した。講演会は有意義な貴重な学びの場になり講師の岩動先生に感謝申し上げます。

引き続き隣室にて MARS 仙台総会参加者全員の記念撮影を行い、懇親会に移行、宮城メディカルハムクラブ副会長 JA7CAD 安田恒人先生より歓迎の挨拶と乾杯の御発声があり、久しぶりの楽しい eye ball meeting の開始となった。JH7EQW 局湯浅涼先生からの紹介もあり、二年前の東日本大震災 2011.3.11 に最後まで QSO をしながら、犠牲 (Silent Key) になられた JM7USW 局故佐藤幸弘先生を悼み、全員で佐藤先生の御霊への鎮魂の意を共に表すために、1分間の黙祷が捧げられ、宮城メディカルハムクラブ会員同僚の犠牲者への辛い悲しい思い出が伝わるように思われました。JM7USW 局故佐藤幸弘先生は同クラブの中では救急災害通信については最も熱心な会員であられたとの話で、大変な悲劇が身近に起こったことが二年の月日が経過したとはいえ昨日の出来事のような感じがして慰めの言葉を表すことが出来ませんでした。

テーブルスピーチとして、それぞれの立場と

近況を自己紹介して、楽しい有意義な一時を過ごすことが出来ました。また新しく入会された MARS 会員の参加もあり、楽しい内容になった。締め挨拶を再度 JA7CAD 局安田恒人先生により頂き、伊達方式の一本締めで総会懇親会を和やかに有意義に修了することが出来ました。また遅くまで同ホテルの上階の二次会に参加することが出来て旧交を温め、くつろいだ一時を過ごすことが出来て有意義で楽しい第一日となり世話役の渡辺先生他スタッフの方々に重ねて感謝せずにはおれませんでした。

4月21日(日)午前7時、朝食を終え、8時30分に江陽グランドホテルを専用バスにてエクスカーションへの出発となりました。天気は季節外れの大量の雪が降り、4月の天気とは信じられない雪中バス運行となりました。NHK 放映で有名になった仙台空港の北に約10km の名取川河口付近の貞山堀内側の「閉上地区」が被災地への第一の訪問でした。



一昨年3月11日の大津波により900名近い住民が犠牲となり、90%の殆どの家屋が破壊され、家屋の後は基礎が残っているだけで、鉄筋コンクリートの中学校だけが目立つ状況でありました。地元の関係者や支援団体が「心のケア」の一貫として被災地の真ん中に更地になってしまった土地に「閉上の記憶」と命名された

プレハブが設置されておりました。そのプレハブの場「閉上の記憶」にて被災当日の映像を見ることが出来て、如何に大変な津波災害であったか分かりその悲惨さが伝わって参りました。70歳を超える地元の「津波の語り部」と自称する方から大津波災害の実態を伺い、さらに現地の中学校へ雪の中歩いてその前に行きますと、10数人の中学生の犠牲者のための石碑が立ち、その前で若い犠牲者のために声をかけあい黙祷を捧げました。私は雪で濡れた犠牲者の名前を刻した御影石の碑の雪をゆっくりと取り払いながら、黙祷し、その場を後にしました。

閉上地区はまだ地元にもどって街を復興させたい住民と、それを希望しない住民が半々であるとのことで、土盛りをして新たな住居とする案はまだ決定できないでいるのが現実であり、したがってこの津波災害の現実を後世に残すことが「語り部」の責任であると言う老人の言葉が切実に迫るものがありました。



宮城県の大震災の被災地の訪問を通して、岩手県被災地のみでの支援経験を振り返りまた反省させられる想いでした。宮城県の各地域にも大変な被災地の現実があることに気づかされ、さらに福島県では複雑な原発災害を加えた被災地の現実はまだ複雑な課題があることは疑いのないことであり、これからの日本の復興復

旧への共通の課題ではないかと思われました。

専用バスで北上して松島へ向い雪がさらに激しくなり、松島は四角堂を観ながらそのまま、有名な塩竈神社に向かいました。長い歴史に耐えた風格のある石段を登り、途中で満開の桜に珍しく雪が重なり不思議な珍しい光景が続いた。改修中の塩竈神社の本殿に参拝し、その後神社の付近の下り道の傍らの日本料理店にたち寄り、共に豪華な昼食を頂いた。美味しい日本酒を頂きつつ、塩竈の地酒を楽しみ、塩竈肴市場を訪ねて新鮮な魚、牡蠣、蟹等の新鮮な海の幸の味を楽しむことが出来ました。



専用バスにて、仙台空港へ向かい、関西へ帰る MARS 会員を見送り、来年の九州総会での再会を約束して仙台駅で解散となった。東日本大震災の被災地であるにもかかわらず、そのような雰囲気を感じられないほど有意義な学びの仙台 MARS 総会を精一杯に準備された渡辺孝志先生と宮城メディカルハムクラブの先生方に重ねて感謝して、また遠方からご参加頂きました関西3エリアや6エリアおよび1エリアの MARS 会員の諸先生方にも合わせて御礼を申し上げ仙台 MARS 総会の記録に替える次第です。来年九州でまた再会を楽しみにしたいと思います。各局お空でもお会いしましょう
CU AGN 73

MARS 会員都道府県別分類

(J A 1) 20局	(J A 5) 3局
東京都 JA1FF JA1BOW JF1SXY	香川県 なし
JK1AIN JL1BGP JP1HIS	徳島県 JA5GPJ JA5POS
<u>JH7WKU</u> <u>JR9FQO</u>	愛媛県 なし
神奈川県 JH1IAA JE1TNL	高知県 JH5KAJ
埼玉県 JR1CDJ JR1JIC JE1MMK	(J A 6) 6局
JL1LRJ 大塚博紀	福岡県 JA6BMB JA6RQK JH6IBM
茨城県 JI1VAH	JE6IUM JG6DAO
群馬県 JA1KXT JR1SJD	大分県 なし
千葉県 JM1BIX	熊本県 なし
栃木県 JO1RTV	宮崎県 なし
山梨県 なし	鹿児島県 なし
(J A 2) 7局	佐賀県 JR6EZJ
愛知県 JA2DQH JH2QBQ JR2AXV	長崎県 なし
JG2XEJ	沖縄県 なし
静岡県 JA2BIV JE2ANG JO2DBR	(J A 7) 22局
岐阜県 なし	青森県 JA7VAB JR7BWP
三重県 なし	秋田県 JH7MSL JE7MMC
(J A 3) 29局	岩手県 JA7AOM JA7PPA JH7IIR
京都府 JA3ASU JH3SQM JH3SQN	JH7OLB JH7XGQ JE7EDF
JH3SRC JR3HFS JR3JJQ	JG7CRJ
JF3BIE JF3ITN JF3NXJ	山形県 なし
大阪府 JA3BQT JA3LDH JA3WKF	宮城県 JA7DOR JA7EVM JA7WTH
JH3AEF JR3KBI JR3LJI	JH7CAI JH7EQW JH7QFA
JE3RZA JF3EKP JF3MTM	JR7CAD JP7DMV
JJ3MIG JL3SIK JO3VKD	福島県 JA7FHH JE7GFM JP7FSO
滋賀県 JF3PMG	(J A 8) 3局
兵庫県 JA3XED JH3GOB	JA8JDQ JA8RSJ JI8MVL
奈良県 なし	(J A 9) 3局
和歌山県 JH3TCC JF3JON JI3CIN	富山県 なし
JJ3KUL JM3BCQ JN3ASW	石川県 <u>JK1QLR</u>
(J A 4) 4局	福井県 JH9HDD JE9RWF
岡山県 JE4EWM(exJA5LDZ) JG4JFW	(J A 0) 3局
広島県 JH4DPL JH4UYB	新潟県 JA0CEP JH0LME JE0BWH
鳥取県 なし	長野県 なし
島根県 なし	
山口県 なし	

_____は他エリアからの移動局
計 100 局 (2013 年 9 月現在)

第37回MARS仙台総会

2013年4月20日 江陽グランドホテルにて

司会進行 JH7QFA 渡辺孝志(宮城県)

会長挨拶 JA7AOM 及川忠人(岩手県)

本日は遠路にもかかわらず、第37回MARS総会にご参会頂き、心から感謝申し上げます。特に今回はJH7QFA局渡辺孝志先生と渡辺先生率いる宮城メディカルHAMクラブの諸先生方のご支援のもと、東日本大震災から丁度2年1か月経過して、その甚大な被害を受けて、復興の中にもかかわらず、御苦勞を頂き仙台MARS総会開催が出来ましたことを、渡辺先生をはじめ多くの関係各位に心から感謝を申し上げたいと存じます。

隣県の盛岡におりながら、手伝いも出来ないで、誠に申し訳なく思っております。今回岩手県医師会副会長の重責にあるJH7OLB局岩動孝先生に特別講演をお願いし、お引き受け頂き、特に災害時のアマチュア無線の在り方についての興味深い内容について、ご講演頂くことになりました。超多忙の中御講演される岩動先生に心から感謝申し上げます。

日頃、3.5MHzならびに7MHzによるドクターネットの活動は、我々のMARSに属する会員にとって、大切な活動であると思います。昨今様々な通信方法が進展し、インターネットの普及が著しい中であっても、アマチュア無線の重要な働きが注目されております。特に大災害の初動時の緊急通信での活躍の場があり、アマチュア無線に代わる方法はありませんし、多くの実践的活動によって

その有効性が立証されております。

昨今大きな震度が頻発し、今後大きな地震災害への備えを日頃から意識して準備することが必要であると思います。これまで緊急時の活動の方向についてはMARSの諸先輩が重ねてこられた業績はとても大切ではないかと思われまます。様々な緊急事態に対応することを中心に具体策を含む指針等を作成しながら、大災害時のアマチュア無線の在り方とその有効活用が現場には求められていると思うからです。

またこの医師アマチュア無線連盟は特に宮城メディカルHAMクラブの諸先生方の御尽力により、仙台MARS総会は東日本大震災後初めての被災地現地での開催となります。中々近くにおりながら、他県の被災状況を見るのが少ないことや、また全国のMARS会員に被災状況をご自分の目で見ることはとても大切ではないかと思っております。これから起こる可能性のある大災害に対して如何にその被害を少なくする努力と緊急通信網の整備が今後極めて重要であると思われまます。そのような意味で、このMARS仙台総会が、今一度立ち止まって我々の活動を足下から見直し、日常生活の中で災害への対応を中心として検討するきっかけになれば、望外の喜びであります。いずれ大災害初動時のアマチュア無線の役割とその使命は今後ますます時代の要請として大きくなると思われまます。

阪神淡路大震災の時に活躍された大門先生の御業績をはじめ沢山の先輩方の災害

時アマチュア無線の役割と使命の検討は MARS 会員すべての緊急の課題であると思えます。今回、この第37回 MARS 総会への御参加に重ねて感謝申し上げ、アマチュア無線を通して少しでも、世の中に役に立つ活動に成長することを願いつつ MARS 会長として、第37回 MARS 仙台総会開会の挨拶に代える次第であります。本日は誠に有難うございました。

祝辞

宮城県医師会長 嘉数研二先生

(代理 登米裕也常任理事)

宮城メディカルハムクラブ会長 水戸洋一先生

議長選出

JA3ASU 狭山信矩氏(京都府)を選出

報告事項

庶務報告 JL1BGP 井上文正(東京都)

会員数 107名

うち12名が4年間会費未納、3名が3年間会費未納となっております。

事業報告

MD ネット 7MHz JH7QFA 渡辺孝志

7MHz(40m)は QFA が全くコンタクトできなかったのは、1月の 2 回だけで、昨年よりはお空のコンディションは良かった様でした。またこの期間も JH6IBM 局とはつながりFB でした。常時 JH3AEF 局に JA7AOM、JR1SJD、JH6IBM の各局にローカルスキップの際にはお願いしております。今年はニューカマーの局長さんが少しずつでもネットに参加、これからもお空がにぎやかになることを期待しております。

毎週水曜日06:30から7.060MHz でやっておりますので皆さまのご参加をお待ちしております。

7MHz(40m)ロールコール参加局

24.6.13~25.4.17

局名	コンタクト回数
JA1FF	34
JA1KXT	1
JR1CDJ	19
JR1SJD	12
JL1BGP	23
JL1LRJ	12
J11VAH	34
JH2QBQ	23
JH3AEF	36
JH3GOB	28
J13CIN	26
JH6IBM	19
JA7AOM	39
JA7WTH	14
JH7EQW	1
JH7QFA	43
JP7DMV	13
JP7FSO	4
JE9RWF	5
JH0LME	2

以上 20局

MD ネット 3.5MHz JA1KXT 相田信男(群馬県)

3.5MHz(80m)は本年度も多くの局の参加をみましたが、さらに多数のOMのQRVをお待ちしています。この1年間、QSOのできない日はありませんでした。

毎週水曜日 0600～0630JST		MARS3.562 に QRV	
3.565MHz±3kHzQRM		09.26	8
		10.03	7 台風接近
3.5MHz(80m)ロールコール参加局数		10.10	10 久しぶりに 3、7 間が 59 に
2012.04.04	9 3、7 間NG	10.17	8
04.11	11 3、7 間NG	10.24	10
04.18	9	10.31	8 3.565 に久しぶり戻る
04.25	9 JR1SJD 春は嫌いだ	11.07	8
	JA1KXT 桜満開	11.14	8
05.02	7 JH3AEF 室戸岬クルージング	11.21	9
		11.28	8
05.09	7 JH3AEF 総会準備進行中	12.05	11 JM1ZZM/9 QRV
05.16	8	12.12	9
05.23	8 (KXT;QRT)	12.19	8
05.30	7 JL1LRJ 体調悪し	12.26	9
06.06	7 JH3AEF 来週は XT2 へ	2013.01.02	6
06.13	7	01.09	8
06.20	7 台風接近 バンド一杯に QRN	01.16	9
		01.23	8
06.27	9 JH3AEF オオムラサキ飛びまわる	01.30	10
		02.06	9 関東に雪
07.04	8 先週よりもさらに condx 悪化	02.13	9 JH3AEF 来週から XT2
		02.20	8 JP7FSO80m 初参加
07.11	8	02.27	10 2015 年京都医学会総会での MARS 総会予定 (byJL1BGP)
07.18	7 JL1LRJ/0 (KXT;QRT)		
07.25	8		
08.01	5	03.06	9 JH3AEF XT2 から戻る
08.08	9 JI1VAH80m 初参加	03.13	10
08.15	5 3.559 にすごいノイズ	03.20	6
08.22	8	03.27	12 JH7QFA JR1SJD
08.29	9 3.565 にバーというノイズ		JI1VAH JH0LME
09.05	8		JL1LRJ JP7FSO
09.12	7		JH3GOB JL1BGP
09.19	11 JE9RWF 久しぶり QRV		JA7AOM JR1CDJ
	JA7WTH80m 初参加		JH3AEF JA1KXT

MARS NEWS

JF3JON 田中憲児(和歌山県)

昨年12月に72号を発行いたしました。今総会後にも速やかに発行させていただきたいと存じます。皆様のご投稿をお待ち申し上げます。

MARS AWARD JA1KXT 相田信男

1) MARS 医学 AWD 発行状況

1局申請がありました。

No.174 JH3OHO 宮井 彰 OM Class B

All SSB,AJD,WAC

MARS 医学 AWD 年間賞受賞者も宮井 OM となります。賞品の Standard VX-3 は総会の終了を待ってお送りするように致します。

2) MARS 医学 AWD II 発行状況

昨年度は申請がございませんでした。ただし、この AWD は JAG(Japan Award-hunters Group)の認定 AWD に再認定されました。各局による PR、QSL 発行へのご尽力をお願いします。

致します。

3) 会計

収入の部:

前年度からの繰越	3,018 円
MARS AWD 申請料	800 円
合計(A)	3,818 円

支出の部:

AWD 送料	240 円
昨年度年間賞送料	1,160 円
合計(B)	1,400 円

合計(A-B) = 2,418 円 → 次年度に繰越
なお、年間賞の代金は本部会計に依存しました。

MARSホームページ

JH3TCC 家田勝幸(和歌山県)

ホームページは現在内容をさらに充実させるべく改訂作業を進めているところでございます。リンクが切れている部分があり、順次整理しております。

平成24年度 会計報告 JL1BGP 井上文正

収入の部	予 算	決 算
繰越金	1,109,803	1,109,803
会費収入(23、24年度)	1,200,000	1,083,400
その他	0	
東京総会剰余金		55,650
大阪総会剰余金		55,000
預金利息		114
合計(A)	2,309,803	2,303,967

支出の部	予 算	決 算
MARSニュース	300,000	152,040
MARSアワード	30,000	23,430
ホームページ管理費	120,000	120,000

送料通信費	30,000	15,120
総会助成金	100,000	100,000
講演謝礼		50,000
事務用品費	5,000	0
事務員謝礼	60,000	60,000
JM1ZZM開局申請		31,930
慶弔費	20,000	8,925
雑費	5,000	10,000
合計(B)	1,168,000	571,445

(A)-(B)=次年度繰越額	1,141,803	1,732,522
現金		5,778
合計		1,738,300

会計監査報告

帳簿、通帳、領収書等を厳正に確認の結果、会計は適正に運用されていることを証します

平成25年4月20日 監事 JH3GOB 稲美 修

議事

平成25年度事業計画案 承認

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1)MD ネットの充実と緊急時ネットの検討をする | 7)MARS CALL BOOK の編集・改訂を行う |
| 2)MARS NEWS の充実を図る | 8)その他 |
| 3)MARS アワードを継続する | 次回(第38回)総会は JH6IBM 局に福岡県 |
| 4)MARS ホームページの充実を図る | で開催していただく予定です。 |
| 5)災害時の MARS Network の活発化を検討する | 次々回(再来年の第39回)総会は医学会総 |
| 6)MARS 新入会員の入会を推進する | 会が開催されるため京都で開催予定です。 |

平成25年度予算案 承認

収入の部		支出の部	
繰越金	1,738,300	MARSニュース	200,000
会費収入	500,000	MARSアワード	30,000
その他(預金利息)	100	ホームページ管理費	120,000
合計(A)	2,238,400	送料・通信費	30,000
		総会助成金	100,000

事務用品費	5,000
事務員謝礼金	60,000
慶弔費	20,000
雑費	5,000
合計(B)	570,000

(A) - (B) = 次年度への繰越金 1,668,400

仙台総会参加局

JA1KXT	相田 信男	JA7MIJ	大山 健二
JJ1VAH	天谷 龍夫	JA7MTW	助野 典義
JK1AIN	中村 幸伸	JA7TKC	水戸 洋一
JL1BGP	井上 文正	JA7WTH	中川 洋
JL1XWR	井上 喜代	JH7AXB	矢口 寿一
JL1LRJ	安斎 雅夫	JH7CAI	佐藤 裕也
JA3ASU	狭山 信矩	JH7EQW	湯浅 涼
JH3AEF	東條 純一	JH7IIR	斎藤 和好
JH3GOB	稲見 修	JH7MHG	沖津 卓二
JH3TCC	家田 勝幸	JH7OLB	岩動 孝
JF3JON	田中 憲児	JH7QFA	渡辺 孝志
JF3MTM	柴田 敏弥	JL7VEN	真山 よしこ
JH6IBM	石井 文理	JO7QVC	佐藤 俊一
JA7AOM	及川 忠人	JP7DMV	姉齒 秀平
JA7DOR	鈴木 幹男	JP7FSO	高瀬 信弥
JA7EVM	谷田 泰男	JR7CAD	安田 恒人
JA7MCA	登米 祐也		山辺 由美

新入会員

JE6IUM 後藤 元秀 先生 (北九州市小倉北区)

JA7DOR 鈴木 幹男 先生 (仙台市宮城野区)

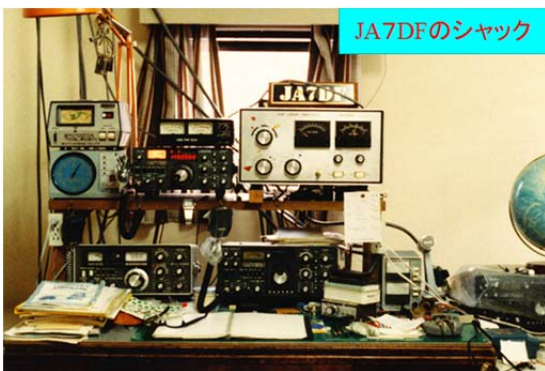
JP7FSO 高瀬 信弥 先生 (福島市)

災害時のアマチュア無線の活用と役割

JH7OLB 岩動 孝(岩手県)

ただ今ご紹介をいただきました、JH7OLB、岩動 孝でございます。過日、本会の及川忠人会長から電話がありまして、本日の総会にて、何かお話をするように、とのご指示を頂きました。震災に関することでよろしい、ということでしたので、十分なお話ができますかどうか、不安なところはありますが、今回の震災に際しての岩手県のアマチュア無線の活動とほんの少し、今後の課題のようなこととお話し申し上げたいと存じます。

災害とアマチュア無線として有名なのが、昭和46年7月、雫石上空で発生した「全日空旅客機と自衛隊機の衝突事故」でありました。常日頃ジープに無線機を積んで居た私の父親 JA7DF 局(岩動隆一)はいち早く現場に向かい、そこで電話回線が混雑のためまったく通じなかった時に盛岡にいる HAM 仲間と交信し、情報を岩手県医師会、盛岡市医師会などに伝達したことが今もなお語り継がれております。



JA7DF 局は戦前からの無線愛好者でありまして、戦前は J6DP というコールサインで自作の無線装置、アンテナで電信並びに電話による QSO を楽しんでおりました。私が中学生のこ

ろ、ロシアがスプートニクを打ち上げたとき、その送信電波をキャッチしたアマチュア無線家として報道されたこともありました。

父は医師会活動にも熱心で、若いころの安田恒人先生とも親しくしていただいております。

前置きはこの位にいたしまして本論に入りたいと思います。平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災の後、全国において災害時の情報確保の手段に関心が高まり、岩手県医師会では「岩手メディカルHAMクラブ (JH7YYM)」を再開しました。また盛岡市医師会でも「メディカルネット盛岡 (JE7YII)」を立ち上げ、構成員5~6人でのロールコールを開始しました。同時に岩手県防災訓練にアマチュア無線盛岡クラブとともに参加し、アマチュア無線による情報交換有益性をアピールしました。しかし、月日が経つにつれ、防災意識や危機意識が薄れ、ロールコール参加者も減ってきました。しかし、防災訓練だけは細々ながらも続けて来ております。



平成23年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とする大きな地震が発生しました。地震の

被害もさることながら、それに引き続く大津波が空前絶後の被害を岩手、宮城、福島の3県にもたらしました。地震直後には停電にみまわれ、情報は電池式の携帯ラジオのみ、という状態になりました。地元ラジオ局は通常の放送をすべて取りやめ、地震情報・津波情報、医療情報、住民の安否、尋ね人、などの情報を流し続けました。長引く停電、電話の不通状態のため被災地の状況を知ることができず、多くの人たちは不安な毎日を過ごしました。通信手段はローカル放送局に情報を伝達し、それをアナウンサーに読んでもらい、そのことにより一方向の情報を発信することは出来ましたが、相手がそれを確認できているかどうか分らず、精神的に不安定な状態が続きました。内陸で過ごす我々がこういう状態でしたので、被災地の方々は避難所での集団生活を強いられ、飲料水、食糧、医薬品などは手に入らず、また親兄弟が目の前で波にさらわれる様子を見せつけられている子供たちなどは、心に大きな傷を負ったことと思います。そのような中、岩手県医師会の情報取得手段として最も役立ったのが、自家用車で直接現地に行ってきた人たちの口伝えの情報でした。災害時優先電話は、盛岡市内は通じましたが、沿岸各地は電話回線が寸断され、停電も重なって全く情報交換は出来ませんでした。

平成23年4月2日、岩手県医師会会員である岡崎宣夫先生(JA1LRT 局一関市西城病院勤務)の努力で、一関の室根山頂にリピーターが設置されました。同時に岡崎先生は「WiRES II システム」と呼ばれるインターネットを利用し多遠距離通信網を構築しました。このような活動の最中、岡崎先生は残念ながら平成23年7月10日、急病のためお亡くなりになり

ました。後日盛岡で行われた「岡崎先生のお別れ会」には多くのアマチュア無線家が集まって先生のご冥福を祈りました。

WiRES-II

Vertex Standard

災害に強いインターネットの特徴を活用し、無線ネットワークの構築が全国に広がっています。



これまで岩手県内では普及率が低かったが、沿岸の被災地支援のレピーター整備とともに内陸部への窓となるWiRESノード局を増設した。
(機材提供: パーテックススタンダード、ダイヤモンドアンテナ)

この「WiRES システム」を利用すると、盛岡と一関、水沢、遠野などの内陸部はもちろん、久慈、宮古、釜石、大船渡、陸前高田とも良好に通信可能であります。震災後は毎週土曜日の午後7時から、岩手県内各地の多数の局の参加によるロールコールが行われていましたが、年数がたつにつれこれも参加者が少なくなり、現在は1か月に1回細々と続いている状態であります。



一方、阪神淡路大震災の際に JARL はハンディー無線機地震にコールサインを割り振って被災地に無償貸与しました。今回も JARL から岩手県内に50機の無線機が貸与されました。この無線機は第4級以上のアマチュア無線従事者免許を持っている人や漁業無線に従事する方々により有効に利用された、ということがあります。前述のロールコールにも JARL から貸与された無線機を用いて参加する局もありました。



「WiRES システム」はインターネットにつなげるためのコンピューターが必要ですが、岩手県ではインターネット回線との接点を有する局 (NODE 局) が県内各地に配置され、これによって四国4県に匹敵する広い県土を有する岩手県のほとんどすべてにエリアとの間での交信が可能になりました。また、室根山リピーターや県内各地の NODE 局の維持管理には岩手県内のアマチュア無線愛好者の方々の大きな貢献があったことは言うまでもありません。

今回の災害の大きな特徴は、被害者の多くが津波で亡くなっており、阪神淡路大震災の時のように、大きな外傷を負って発見された方がほとんどいかなかったことです。DMAT の出番がなかったのです。DMAT として県内に入った医療スタッフは急性期医療ではなく、検死や避難所医療に携わりました。救急搬送される人も少数でした。

しかし、透析を受けておられる方は、停電や断水のため、沿岸での透析が不可能であり、内陸での透析が不可欠でした。岩手腎不全研究会(岩手県の透析施設の集まり)では、いち早く岩手県災害対策本部に入り、情報の確保、医療物資の搬送、患者の受け入れ確保など、透析患者受け入れ調整を行いました。これが非常にうまくいって、岩手県の透析患者が透析を行うことができないで亡くなった、という事例は

ありませんでした。

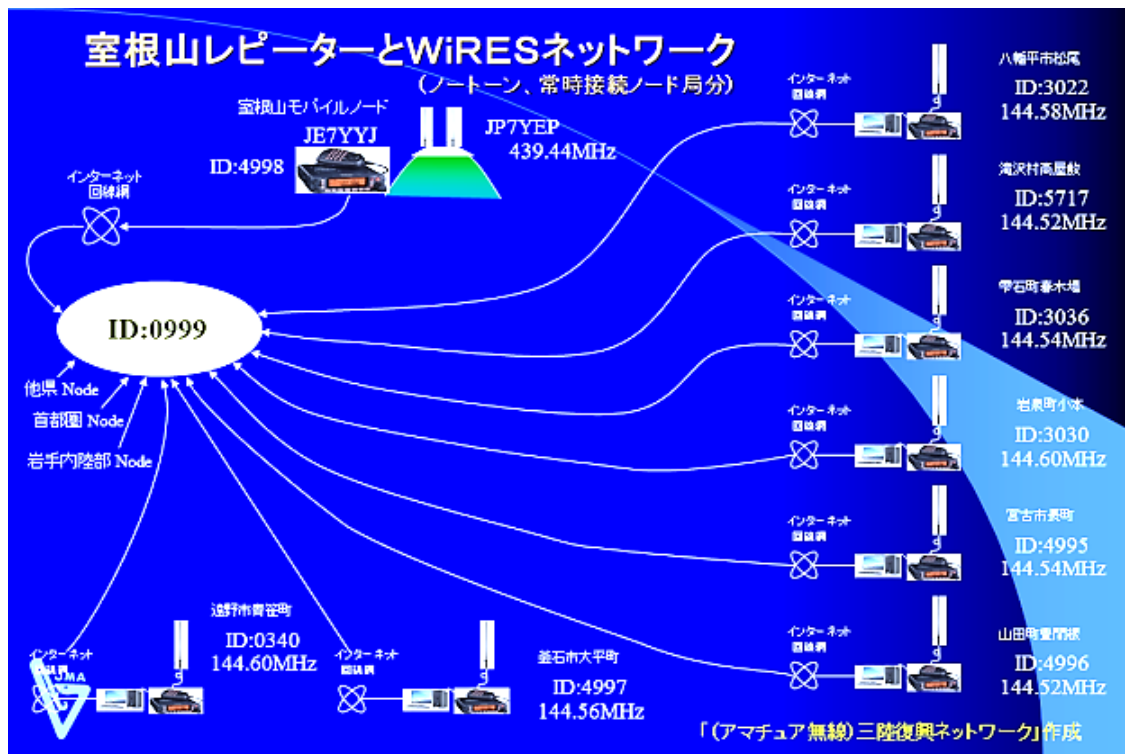
岩手腎不全研究会は、この経験を踏まえ、岩手県の透析医療機関45施設すべてにアマチュア無線局を開局させ、無線機とアンテナを無償配備し、無線従事者免許保有者がいない施設には第4級アマチュア無線技士を取得する講習会費用(二人分)を補助しました。現在、県内各地で透析施設のアマチュア無線局を開局し、前述の「WiRES システム」を用いて毎週月曜日と火曜日のお昼の時間帯を利用して定期交信を行っております。しかし、まったくアマチュア無線に関心のない透析スタッフに無理やり免許を持たせ、強制的に開局させたことから、無線機の扱い方もわからないまま時間が過ぎて、開局しても電波を出さないでいる、という問題もあり、今後は「すでに資格を持っており、アマチュア無線交信に精通している人たち」の力を借りて、県内の諸施設を回り、無線機の取り扱いや QSO の仕方を指導しながら、ネットワークの完成を目指すことにしております。

アマチュア無線は、それを趣味とする人にとっては楽しいことですが、その人たちであっても毎週、定期的に同じ時間にロールコールに参加するということは「簡単そうで難しいこと」だと思います。ましてや、まだ興味を持ってない人たちが、定期的にしかも無期限にロールコールを続けるためには、普段から楽しい QSO ライフを過ごし、楽しみながらシステムをゆるぎない形で完成させることだと思っております。

風化させないように、日常の趣味の世界を楽しむ、短期間で終わらせず継続的に行う、ということが「災害時のアマチュア無線の活用」の基本だと思っております。

ご清聴ありがとうございました。

【支援イメージ図】

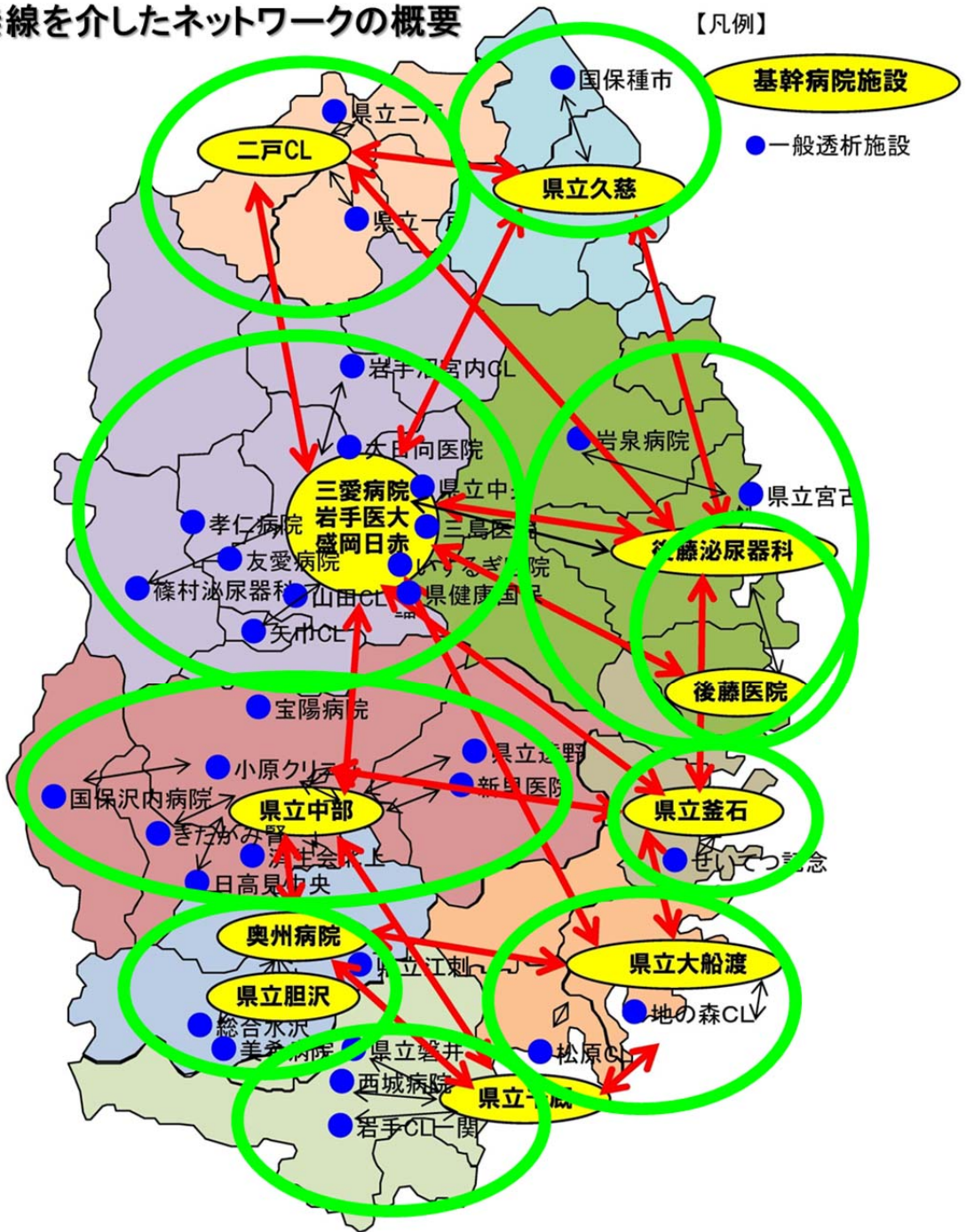


無線を介したネットワークの概要


【凡例】


基幹病院施設

● 一般透析施設



※1 保健医療圏(色分け)単位で基幹病院施設を中心としたグループを構成

※2  は短波帯で直接交信

※3  は144メガあるいは430メガでの交信

心のケア支援活動と三陸復興 Network

JA7AOM 及川 忠人(岩手県)

2011年3月11日の東日本大震災からすでに2年1か月以上が経過いたします。復興・復旧の槌音が必ずしも聞こえにくい現状が継続しているのが実感であります。少しですが、被災地への観光客もある地域もあり、明るいきざしがあるとの、情報が三陸復興ネットワーク5月のロールコールの中で話題になりつつあります。今回は岩手県医師会副会長 JH7OLB 局岩動孝先生の特別講演「災害時のアマチュア無線の活用と役割」との素晴らしい含蓄に富んだご講演を受けましたが、その中で岩手県内 Wires II ネットワーク構築の初動期に関わりを持つことが出来たこともあり、岩手県におけるこれまでの UHF を用いた Wires II ネットワークシステムのこれまでの経緯と現状について付け加えることをお許し頂くことになりました。

2013年4月6日(土)には三陸復興ネットワークのロールコールは69回を迎えて12局の参加で継続されていることを、その通信録音の紹介と実際の心のケアを行った大震災直後のスライドを用いて経過を説明致しました。岩動孝先生のご講演でもご指摘の通り、次第に、被災時の緊迫感が薄れて、時代の経過と共に風化現象の波と闘う必要があると思うのは小生のみではないと思います。

小生が心のケアに関わったのも10年間は支援継続が必要と思いつつ続けてきた支援活動も風化の波にさらされている現状があると思われれます。仮設住宅からの終の棲家への移転も大きな心の負担となる経済的・社会的な課題が山積して、被災地住民の不安が少なくなるこ

とが無く、先が見えにくい現状を憂うものであります。

ここで三陸復興ネットワークの創設に尽力を尽くされて2011年7月にご逝去された JA1LRT 局岡崎宣夫先生との交流関係について振り返り、当時の三陸復興ネットワークの果たした役割の一部をご紹介することが出来れば有難いと思います。

2011年(平成23年)4月2日にまだ寒い時期、大災害の発後3週間のまもない寒い頃に、室根山にレピーターを設置開局されたニュースが岩手日報に大きく報道されました。実は小生は日本医師アマチュア無線連盟会長という立場から、発災当初から、内陸部と沿岸部の通信手段の確保の可能性について、岩手医大高次救急救命センターの担当医師から検討を依頼され、日本赤十字社盛岡支部等を中心とするそれぞれのアマチュア無線クラブの責任者等にその旨をお話したところ、県防災部からの正式な要請があれば動きますとの返事でありました。しかしながら、一向に返事が無く、残念な思いがしてなりません。少しでも被災地の方々の支援に繋がればと思ったからです。あとで聞いたところによれば、アマチュア局は今回の大震災では破壊された環境が劣悪であるため、派遣するわけにはいかないという県災害本部の考え方があったとのことでした。

また約12年前に岩手山火山活動が活発化して噴火する可能性があるとの報道されて、その支援体制を築くためにアマチュア無線ネットワークを地元の旧松尾村に構築し活動をした経

験から、八幡平市の行政実務担当者のトップであった武田副市長からも県防災本部に申し入れてもらいました。また県医師会アマチュア無線クラブ会長である岩手県医師会副会長のJH7OLB 局岩動孝先生からも同じようなアマチュア無線の活用への提案をして頂きましたが、残念ながら同じように返事が無い状況に留まってしまいました。

しかしながら東日本大震災による大津波はアマチュア無線家が出る幕が無いほど、巨大規模災害であり、どのような活用が可能であったかというニーズの現場での把握も困難であった時に何か方法がないものかと暗中模索の中にあった時に、岡崎宣夫先生とその支援する方々が室根山にレピーターを設置し、被災被害が甚大であった陸前高田市等の沿岸部との通信手段が共有化されることは極めて貴重な活動であることに賛同して、すぐ新聞に報道された岡崎先生の携帯電話へ直接連絡を取り、そのご苦勞に感謝を申し上げました。

たまたま、千葉県が派遣する「心のケア」チームの一員として小生は 5 月初旬から現地に協力支援員の一員として現地に入りましたが、その活動の開始スタートの時からいろいろな診療機関や介護保険施設等をお訪ねするときには、地元のアマチュア局と通信しながら津波被害が巨大で瓦礫で方向が分からなくなっている現場のご案内をスムーズに支援して頂くことができました。これも岡崎先生が一ヶ月程で構築した室根山レピーターの完成による広域超短波通信網が整備されていたからこそ可能なことでした。心のケア支援活動は月に一度継続して参りましたが、岡崎先生を中心に「災害支援ボランティアセンター」として簡易宿泊施設まで用意する準備の周到さであり、全く頭が下がる

思いでありました。これらの活動は毎月行われた「心のケア」支援活動の中で、早朝一関の宿泊施設から被災地現場に訪問する早朝の 6 時 30 分頃に交信が楽しく開始され、様々な思いを通信に託してお話することが出来たことは、とても有り難い時間を与えられたと思い、今でも岡崎先生のご厚意を楽しい思い出となっております。その後少しでも被災地の復旧・復興にお役に立てば有難いと考え、このレピーターの開設は地元のアマチュア無線家に大きな希望を与え、そのネットワークは今でも三陸復興ネットワーク(陸前高田市小松氏)として毎月のロールコールを行うことで維持されております。

岡崎先生は早朝から無線に出られ、何時睡眠を摂られているのか分からないような状況でした。たまたま小生の所属する東八幡平病院にもアマチュア無線クラブがあり、短波HF、超短波VHF、極超短波UHFの送受信機がありますとの申し出に、すぐに当院にこられて、時代相応のトランシーバーに変更することと致しました。その後、ノード局としての開局を要請されて、直ちに同意して、このノード局設置により戸町八幡平市の守備範囲が広がりました。岡崎先生は休む暇もなく土日の沿岸各地のノード局の設置に精力的に動かれ、久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市、遠野市、そして室根山レピーターを介するネットワークが広がり当初は水金の夜のロールコールを行い、数週間前から土曜日の 20 時からのロールコールを行っており現在は 70 回を越えて継続されております。

2011 年(平成 23 年)6月の初旬に早朝の 6 時 50 分頃かなり大きな地震があり、その時にこのネットワークの参加された局は 40 局に上りました。幸い被害のないことを確認致しましたが、

陸前高田市のみは登校待機の指示が出され、7時45分にはそれが解除されたとの情報が伝わりました。

また先日7月2日(土)の午後一時半頃にも遠野を中心とする震度5強の地震がありました。たまたま宇都宮のネット局が最新情報を発信提供して、津波の可能性は無いとの情報を通報してほっとしたわけでした。このように有事の時の連絡通信ネットワークとして「沿岸と内陸部をつなぐ役割」は、その需要は減らずむしろ、今後このネットワークを利用する方々が増加すると予測されます。

岡崎先生は4月・5月・6月の3か月間にわたり、全力で岩手県の内陸と沿岸部を結ぶネットワーク作りに全力を注いで専心され、その車での移動距離と費やされた時間は並外れたものであり、その実行力と体力に、全ての人が敬服しておりました。

お互いにお会いする時にはあまり話数が多いわけではないのですが、マイクをとり、ゆったりと交信される岡崎先生の静かな口調(JE7YYF との声)が懐かしく思い出されます。県北の八幡平近辺に来られた時には、日本離れた景色であり、訪英した時のイングランドの光景に似ていると仰り、少しゆとりができましたら、ゆっくりと八幡平の温泉につかりながら、沿岸部の方々との交流の時を持ちたい等と、沢山のことを電波を介して話し合得ことが出来たことは懐かしい思い出になりました。

岡崎先生はコンピューターネットのことや様々な技術知識が詳しく豊富で、よく理解され、ネットワークの運用維持にも大きなご努力をさ

れ、2011年7月6日には立派なマニュアルが完成して、当局もそれを頂きました。これから何か困ったときこれを見れば何とかかなりますとのであり、まさか岡崎先生が7月の中旬にご逝去されることは信じられないことでした。

岡崎先生の残された行動パターンは「はじめに行動ありき」という決断即実行という大きなポリシーを学ばされた思いが致します。しかも広範囲のご友人を持たれてこられた岡崎先生の人脈の豊富さには驚きとともに頭が下がる思いが致します。この通信ネットワークに参加した者が共々に、これらのアマチュア無線ネットワークの維持はもちろんですが、それを超えた、岡崎先生の誰に対してでも「穏やかにご指導を行い」「まず行動をする」という、無線ネットワークに賭けるお気持ちを大切にしながら少しでも引き継ぎたいと願うものでございます。それが岡崎先生から頂いたアマチュア無線仲間の責任ではないかと思われま。

岡崎先生が心血を注いでアマチュア無線による地域情報ネットワークが立ち上げられてから、すでに二年が経過致しますが、被災地での風化の波は益々大きくなるのが現実ではございますが、その創設メンバーの中心人物の大きな目的と使命を今一度学び直しつつ三陸復興ネットワークのさらなる発展に少しでも力になれば有難いと思います。今後はこれらのネットワークに広域ローカルネットワークとしてのHF帯(3.5MHZ)の利用が大切になり、その実際的な運用等の検討が必要な時期を迎えていると思う。

千葉県「こころのケア」活動行程(1)

- 2011年5月2日(月)
- 陸前高田市立第一中学校到着 11:30
- 旭神経内科病院チームに合流し、東京都チームと日本PT協会チームと協議
- 午後米崎コミュニティセンターの石木院長に旭先生を紹介、「こころのケア」についての現状を協議した。こころの相談や「こころのケア」外来のパフレットの配布を行った。
- 17:20 合同Meeting: 不眠、インフルエンザ、米崎コミセンでは精神科外来が増加している。自殺念慮について留意点を旭先生がスタッフに配布した。

千葉県こころのケア活動過程(2)

- 5月4日 8:30 高田第一中学着(前日一泊)
- 8:40 「こころのケア」東京チームの申し送りとして、こころのケア外来活動が増加し、活動支援が必要。
- 10:00 高田第一中学には避難所が開設中で約26名が生活支援を受けていた。その後「うつ状態」の患者さんの訪問診察を行う。
- 12:00 県立大船渡病院精神科医師と面談。精神科ケアの患者さんは少ないが、自殺未遂等は少ないが存在する。退院受皿が無いのが深刻な悩み。
- 13:20 仮設住宅に関して市担当課長と面談。こころのケアへの配慮と、交流の場の必要を指摘した。コミュニケーションを取る空間があることを強調。

1日のプログラムの流れ紹介 第5回心のデイケア(2012/8/30)

- 10:00~10:10 健康チェック、活動量計回収、今日の予定説明
- 10:10~10:20 棒体操
活動量計データ取り込み
- 10:20~10:30 発声練習~歌
- 10:30~11:10 菓子作り&体操用棒作り・写真撮影
*女性は菓子作り、男性は体操用棒作り
- 11:10~11:30 日記作成
- 11:30~11:55 第1~第5回の写真鑑賞会と談話会
*第1回~第5回の様子を見ながら振り返る
*第1回からの活動量の変化をお知らせする
- 11:55~12:00 終りのあいさつ
*終了時に活動量計を返却

心のデイケア実施の流れ



心のデイケア実施概要

- 実施期間 平成24年7月26日~11月8日
- 実施日時 毎週木曜日 10:00~12:00
- 実施回数 全15回
- 実施場所 大船渡市末崎地区ふるさとセンターレクリエーションプログラム
- 実施内容
 - *認知、心理、運動プログラム
 - 作業プログラム
 - 家族介護者プログラム
 - 自主活動プログラム
- 実施主体 東八幡平病院、典人会、勝久会、旭神経内科リハビリテーション病院

心のデイケア実施の流れ



対象者

大船渡市末崎地区で訪問調査を行い、認知症・うつ症状が認められ、生活不活発状況が予測される方。また家族介護負担が大きくなってきている方。

- 7名(男性2名、女性5名)
- ・仮設住宅在住 3名
 - ・在宅 3名
 - ・グループホーム 1名

介入中期に向けて

- 介入中期の活動目標として家族の参加を促すことを加える
- 参加者個々人の目標を設定し活動内容に反映させる
- 馴染みの活動や、かつての役割なども活動内容に反映させ活動性の向上を図る

アマチュア無線による緊急連絡網

- 岩手県奥南の室根山にアマチュア無線の中継局が故岡崎宣夫先生を中心に設置され、沿岸部と内陸部の情報通信網が昨年2011年6月末に完成した。非常時に内陸と沿岸部を結ぶ情報ネットワークとして民間有志により維持されています。
(Wiresh II のソフトとインターネットを用いて運用)
- 「三陸復興ネットワーク」との名前で継続され、緊急時の災害等の連絡網として重要な役割を果たしております。
- 現在は毎月第1土曜日の午後8時から定時通信が継続維持され、2年経過した先日の4月6日(土)にも第69回定時通信が行われ、12局が参加し三陸復興ネットワークの大切さと防災意識への貢献が期待されております。

おわりに

- 「地域リハビリテーション: CBR: Community based Rehabilitation」の概念を越えた平成三陸大津波への対応の共同活動はこれからが正念場であり、街作り等への「CBR」からの先見的観点が求められている。
- 被災地支援活動のあり方がリハスタッフの専門分業的なものではなく幅広く統合化された地域に根ざす具体的活動が求められる。
- 「リハビリテーションの理念: 全人間的復権の概念」がさらに吟味され、生物・心理・社会的・実存的存在の地域被災住民へ寄り添う宗教的・哲学的検討も合わせて検討が必要。

大津波の初動期、「想定外」への課題

- 地震から津波来襲まで30~40分間にどう行動すべきか。ほとんど年中行事化した避難訓練のあり方、情報伝達の仕方などについて再検討すべきである。
- 限度を超えた津波「想定外」の津波について
 - ① 縄文人の職住分離の生活形態をモデルに地形に即した市街地形成を図る必要がある。
 - ② 安全な避難路、避難場所を確保する。
 - ③ 正確な情報伝達手段を確立する。

日本医師アマチュア無線連盟(MARS)の活動と入会方法について

MARS は、1977年(昭和52年)に創設されたドクターハムの親睦のための団体で、既に36年の歴史を持ち、次のような活動を行っている。

1) 総会と懇親会

毎年4月の第一土曜日の午後、全国各地で総会と懇親会を開催している。(平成26年は福岡において開催予定)

2) 毎水曜日の朝、3.568MHz(05:30~06:30)

及び 7.060MHz(06:30~07:00)付近でロールコール(MD ネット)を行っている。

3) 日本医師アマチュア無線連盟会報(MARS ニュース)を年2回発行している。

4) MARS 医学アワードおよび MARS 医学アワードⅡの発行。

5) クラブ局(JM1ZZM)を設置している。

6) MARS のホームページを開設している。

URL は <http://www.jmars.jp/>
(談話室へのパスワードは mars)

事務局:

〒175-0092 東京都板橋区赤塚4-17-11

井上医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 03-5968-5777

F A X 03-5968-5778

E-mail fumimasa@cb3.so-net.ne.jp

会費 : 入会金 5,000 円、年会費 8,000 円
入会方法: 事務局にご連絡下されば、入会書類をお送りします。

会長 及川忠人(JA7AOM)

心のケア支援活動と三陸復興 Network(スライド解説)

JA7AOM 及川忠人

岩動先生の特別講演の追加として加えさせて頂きましたスライドの簡単な説明をさせて頂きたいと存じます。今回現場での Wires II を用いたネット通信の現場が説明され、実際の更新場面も録音により紹介され、支援活動を支援して頂く実態を理解する一助になれば有難いと紹介いたしました。加えて小生が気仙地区(大船渡市、陸前高田市)における心のデイケアについての概略を説明したスライドの補足が出来れば有難いと思います。

小生は2011年5月2日から「千葉県心のケアチーム」への参加が許されて陸前高田市立中学校での合流が活動の出発でありました。特に旭神経内科リハ病院チームに合流して活動が開始され、午後米崎コミュニティセンターの石木院長に旭先生を紹介することが出来た。また訪問活動や県立病院精神科医師との面談も行われた。また心のケアへの配慮の必要性を陸前高田市担当課長に進言を申し上げました。約1年間の地味な活動をする中で何かの具体的活動が必要ではないかとの意見が大勢を占めるようになった。

2012年度の実際に行われた時間割等の概要を示したのが図示したスライドである。様々な準備の後に大船渡市末崎地区ふるさとセンターを中心として心のデイケアの実施が成された。その概要は7月下旬から11月上旬までの毎週1回の活動を継続するものとした。実施内容はレクリエーションプログラム、作業プログラム、家族介護プログラム、自主活動が少し心理面(心のケア)と運動面(作業プログラム等)を組み合

わせて活動を継続することになった。

心のケアの目的は生活不活発病の予防と家族への負担軽減そして安心できる居場所を提供することがあげられます。対象者は7名であり、心のデイケアは約2時間のプログラムとして実施された。これらの活動を日記やデジカメにてそれぞれ各自で記録するという活動を加えた。また心のデイケアは介入初期の5回、介入期中期、そして介入後期に内容を多少変化させた。当初介入中期において心身活動性の向上が主なる目標となりました。また重点的に家族の参加を促し、個人の目標等を設定して活動内容に反映させることが出来た。

アマチュア無線による緊急ネットワークの構築はすでに述べているが、現在でも細々として活動が継続されていることを強調したい。これからの「想定外」への課題として津波については限度を超えた場合には縄文人の生活モデルを学びなおす必要がある。また安全な避難路、避難場所を確保することが大切である。また正確な情報伝達手段を確立することが重要である。

小生はこれまで「地域リハビリテーション(CBR)」活動に関わりを持つが、災害時のCBRが街づくりまでの先見的観点が求められる。また被災地での支援活動は広く統合化された地域に根ざす具体的活動が求められております。またリハビリテーションの理念そのものがさらに吟味され、被災地域住民へ寄り添う宗教的・哲学的検討がさらに必要である。

MARS 医学アワードの年間賞を頂きました

JH3OHO 宮井 彰(大阪府)

10日程の旅行を終え帰宅しますと私宛の宅配便が届いていました。御依頼主欄に MARS AWD Mgr.相田様のお名前と品名欄に精密機械とあり、戸惑いながら梱包を開きますと144/430MHzFM トランシーバーと MARS 医学アワード 2012 年度年間賞を受賞した旨のお手紙が添えられていました。

本年2月に JMIZM/9 0p.岩堀 OM との交信で MARS 発行アワードの詳細を知ることが出来、メンバー・リストを拝見しますと私が無線免許取得のきっかけとなった JA3CRZ 入江先生や同じ頃局免を受けたローカルの JH3PQF 岡先生のコールサインを見付け懐かしく拝見致しておりました。残念ながらお二人共既にサイレント・キーとなりました。早速手許のカード

を繰ってアワードを申請致しました所、思いがけなく本賞を頂き大変嬉しく思っています。

アワードは開局と同時に興味を持ち数多くの申請を致しました。中には発行番号が No1 や JA-No1 は有りますが今回のような受賞は初めてで、元来籤運は悪い方で精々年賀葉書の切手シートが当たる程度でしたが、年間賞が抽選で当たった事は大変嬉しく、この運をきっかけに今後とも運の良さを維持して行きたいと思っています。

先ずは MARS メンバーの皆様にお礼を申し上げますと共に日本医師アマチュア無線連盟及びメンバー皆様益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

第38回MARS 総会予告

日時：平成26年5月24日(土)～25日(日)

会場：ハイネスホテル久留米

福岡県久留米市天神町一丁目6

TEL 0942-32-7699

URL:<http://www.highnesshotel.co.jp>

総会：17時から同ホテルで

二次会：久留米市文化街

(飲み屋街、5K別会費)

会費：35K(宿泊他全て込み、領収書発行)

連絡周波数：439.72MHz(リピーター)

講演：演者、考慮中、誰かいませんか！

APRSの講演を企画したいと思いますが詳しいDr.があれば！御推薦を下さい。なけれ

ば、医師以外の方をお願いします。

エクスカージョン：25日(日)大川市の昇開橋を歩行で渡って、えつ船(乗船、トイレあり、筑後川11時～13時)に乗り、目の前で網を入れ取れた新鮮な「魚、えつ」を味わって貰いたいと思っています。昼食は船の中になります。その後、時間があれば吉野ヶ里遺跡の見学を考えています。

帰路：JR.久留米駅→福岡空港→JR.福岡駅

帰路は時間的に調整します。

先ずはお知らせまで。

(医)愛康内科医院 石井文理

Jh6ibm@ktarn.or.jp

カナダ・イエローナイフのオーロラ探訪記

J R 1 C D J 大久保 嘉明 (埼玉県)

初めての夫婦海外旅行に出かけた。行く先はカナダ・イエローナイフ (Yellowknife)。以前から「テレビやスライドじゃなくて、本物のオーロラを見てみたい」と切望していたカミさんの願いを叶えるべく、「よっしゃー」とオーロラツアーに申し込んだ。

北極圏のオーロラ観測シーズンは 8 月中旬から 4 月上旬と言われている。出かけるとなると少なくとも 1 週間は必要で、おいそれと長期間休診もし難いので、厳寒期ではあるが冬休みに行くことにした。

44 年前の第 9 次南極観測越冬時、昭和基地で見たオーロラは素晴らしかった。太陽活動が旺盛になるのは 11 年周期と言われており、今年はずばりオーロラの当たり年のはずだ。12 月 28 日が満月でその点条件はあまりよくないが、それ以上に明るいオーロラが出ることを期待。またイエローナイフはオーロラベルトの真下に位置し、晴天率も高いとのことなのでオーロラ鑑賞にはもってこいの場所だ。

2012 年 12 月 30 日、成田空港をカナダ航空機で出発。日付変更線を超えて、現地時間 (以下同) 同日 15:17、カルガリー空港経由で目的地のイエローナイフに到着。すでに夕暮れで天候は晴、 -27°C 。

空港からホテルまでは凍結道路をバスで 10 分位の距離。16 時過ぎホテル (The Yellowknife Inn) に到着。このとき分かったが、我々が申し込んだツアーメンバーは 16 名で、そのうち男性はたったの 3 名、新婚の 20 歳代新郎と 40 歳前のオタクっぽい巨漢、それに最高齢 75 歳のしょぼくれた小生。断然若い女

性が多く、それも単身での参加が何人もいたのには驚いた。部屋に落ち着いたところで、数時間後の出発に備えて貸与された防寒具を試着。

もこもこのダウン防寒具に身を包み、期待に胸を膨らませて 21:00 ホテルを出発、バスで 30 分ほどのオーロラ観測地点オーロラビレッジ (Aurora Village) に出かけた。

街の人工灯から逃れた何もない原野の一角で、凍結したオーロラレイク湖畔にオーロラ鑑賞専用施設が設けられている。建物とは言えばダイニングホールとギフトショップ、トイレなど数棟で、そのほかティーピーという三角形のテント 16 張りが散在していた。

ティーピーというのはカナダ北部に住む先住民が住居として利用していたテントで、ここでは中に電灯が灯され、暖炉も設けられて観光客が暖をとることができた (写真 1)。

大小のティーピーがあり、大きいのは中に長テーブル 4 脚と椅子 24 脚が置けるほどだった。



写真 1

オーロラ鑑賞初日(12月30日 21:00~31日 02:40) 晴、気温(-25℃)

月齢17の月が明るい、空気が澄んで星もきれいだ。「出たぞー」の声にならって空を眺めるも、肉眼では雲と見分けがつかないようなうすらオーロラ。長時間露光で写真に撮ると緑色のオーロラが写っている、らしい。持参したコンパクトデジカメを夜景モードにして撮影するも見事失敗。オーロラらしいオーロラに出会えずがっかり。

凍結したオーロラレイク上でおとなしく空を眺めていると、分厚い防寒具を着ていてもとにかく寒い。-25℃かそれ以下かもしれない夜間、氷上に立っているのだから当然と言えば当然の話だが、特にブーツが冷え切って、ダブル靴下でもしんと足が冷える。足踏みしたり、うろうろ歩き回る始末。それでも足が冷たいので、暗い中をあちこち早足で歩き回らざるを得なかった。

ひょっとして太陽4極化で11年周期が狂ってきたのか、この夜は収穫無し!

オーロラ鑑賞2日目(12月31日~2013年元日) 雪、-15℃

午前中ゆっくり休んで午後は予定されたイエローナイフ市内観光に繰り出した。どんよりと曇ってなんと昨日より10℃も気温上昇。

オールドタウンを経て世界第10位の広さを誇るグレートスレーブ湖上のアイスロード、プリンスオブウェールズ博物館、ノースウェスト準州議事堂などを見学した。最後にビジターセンターに立ち寄り、北緯60度越えの証明書をゲット(イエローナイフは北緯62度、ちなみに南極昭和基地は南緯69度)。

21:00よりオーロラビレッジでのオーロラ鑑賞

2日目だが、どんよりした曇り、そしてついに雪が舞い始めた。それでも未練がましく空を仰いだ。



写真2. 期間中貸与された防寒具

午前0時の10秒前から新年(2013年)に向かってカウントダウンが始まった。

0-9-8-7-6-5-4-3-2-1 and 0!

オーロラレイク湖上に仕掛けられた花火が次々と打ち上げられ、「新年おめでとー」の大合唱が暗闇に響いた。

ん? 実はそうなんです! 観客も日本人なら、この施設スタッフも日本人、それも若さ溢れるに一ちゃん・ねーちゃん達だった。

その後も雪が降り続き、やむなくオーロラビレッジを辞して、02:00ホテル着。

オーロラ鑑賞3日目 (1月1日~2日)曇~晴、-15℃

昼頃オーロラビレッジに赴き、オプションで申し込んでおいた4kmほどのかんじき歩きを体験。その他犬ぞりやスノーモービルを楽しんだ人もいた。17時半、一時ホテルへ帰り、18時半再度オーロラビレッジへとんぼ返り。

ダイニングホールでツアー客16名そろって夕食。おいしいワインが出て久しぶりのアルコール。食後、オーロラビレッジのスタッフが撮影

した 1 日目のオーロラ写真も披露された。この時点でこちらは写真が撮れていなかったの、全くのあきらめムードになっており、まあ自分の写真ではないがここに来た日付(2012.12.30)が入っているので記念にはなるだろうとDVDを購入した。

その後指定されたティーピー内で暖を取りながら、添乗員にデジカメを見てもらい、マニュアルモードを教えてもらってその後の撮影に備え

た。外は晴れたり曇ったりで、あと数時間の勝負だ。なかなか出ないのでほとんどあきらめていた。

ところが 23 時半になって外が騒がしい。出てみると丁度雲の切れ間に、これぞオーロラと言えるはっきりしたオーロラが出ており、長さ 15cm の短い三脚にコンパクトデジカメをセットし、15~20 秒の露出で何枚か撮影した。



写真3. 北斗七星と緑色のオーロラ、ピンクっぽいのは雲

感度を 800~1600 にしたので大分オーバーになり、前景が昼間のように明るくなってしまった(写真 4~5)。オーロラをバックに記念撮影(写真 6~7)。

それにしても今は写っているかどうかすぐに確認できるので実に便利だ。昭和基地越冬中は ASA100 のポジフィルムを使い、絞り開放

(1.4) で撮影したが、一体何秒露光したら写るのか、日本に帰ってから現像してみないと分からなかったの、長め長めの 30 秒くらいシャッターを開けておいたことを思い出す。

今回わずか 30 分間ほどの天体ショーだったが、オーロラの光が強くなって揺れるたびに「ワー」「キヤー」という観客の黄色い歓声が響き渡

った。その後は曇ってしまったが、雲を通してそれらしい光が見えたので撮影してみたらやはりオーロラだったので、雲さえなければ素晴らしく明るいオーロラを見ることが出来たのかもしれない。

カミさんは「もう少し色とりどりのオーロラが見たかった・・・」と、ちと不満足そうではあったが、まあここまで来た甲斐はあったと言うものだ。

02:30 ツアー客らの安堵した顔を乗せたバスは、オーロラビレッジを後にした。



写真5



写真4



写真6



写真7

素晴らしきかな日本

JH3AEF 東條純一(大阪府)

今年も2月から3月にかけて、関西学院大学が主宰する2012年度西アフリカ電波利用促進ブルキナファソ現地調査に三度目の参加をさせていただいた。我々アマチュア無線家が同行させていただき主たる目的は、現地でアマ無線局を設営、運用し、出来るだけ多くの現地の人達とアマ無線を通して交流し、出来ればその中からアマ無線を志す人が現れ、運用出来る人が育ち、いずれ何等かの形で有意義に利用されるための礎を築くことである。しかし、未だにその芽が見えてこないのは、矢張り我々のこの国に対する認識の甘さがあるのだろうか。一考の余地の残るところである。



アマ無線普及のためのカンファレンス 中央:郵政通信大臣
左:電波監理局長 右:アマ無線連盟会長



「私の趣味アマ無線」と題して講演する筆者。

参加者の多くは幹部役人、軍関係、大学生たちで何とか英語も判る。公用語は仏語と現地語。

今回はその滞在中、私が遭遇し、生き恥をさ

らしたばかりでなく、同行の皆さま、いや、現地の皆さま、現地公機関までも多大の迷惑をかけてしまった盗難事件と、帰国後、私が経験した日本でのハプニングについての天国と地獄のようなお話である。

今年我々が運用したのは主都ワガドグから西南西に約400Km、ボボデュラソという古都であった。首都ワガドグからの空路は週一便、鉄道も無くもっぱら陸路での移動になる。この陸路は大西洋岸の国々から大陸奥地の国々に向かう物資の重要な補給路であり、この国では最も頼りがいのある移動手段なのだ。昨年では未だ未舗装区間もあったが、今年は全区間、舗装が完成していた。とはいってもRIGは大丈夫かなと思われるほどの穴ボコ区間と補修区間がイタチごっこの有様だ。古都ボボには同国無線連盟会長 F. Pooda 氏(XT2HB)がかって暮らした持家があり、彼の勧めでこの空家を使わせていただくことになった。昨年の視察時には相当の廃屋に見えたが、彼曰く、たいまいをはたいて改修してくれたらいい。我々の到着時には見違えるほど美しく改装され、塗料の匂いもすがすがしかった。locationは街はずれの高台にあり、将来は高級住宅地となる地域なのだろう。周りを見渡せば高い塀をめぐらせたこの国ではめったに目にすることのない住居がちらりほらり、しかしその間には明らかに電線も引き込まれず、土壁、トタン屋根や藁葺の住居が点在する。これらの家々には塀もなければ生垣もない。夕食などは軒先で、子沢山の家族が車座になり明るい内にすませるのが日課のようだ。



Pooda 邸 ANT は minimulti HX52A

主婦であろうか、どこからか水瓶を頭にのせ運び込む姿も日課のようだった。道路はやたら幅広く、あちこちに廃材やゴミなどが小山のように積み上げられている。飼い主のわからない数頭の山羊がゴミをあさっている。その割に腐敗臭がないのは極度の乾燥のためだろう。腐敗消滅しないビニール類だけが風にまかせて宙を舞う。この国いたる所で至極当然のように見られる光景だ。パサパサの砂の大地に黒いゴミ袋片が舞い舞いするのだから余計に目につくというものだ。街といえども舗装など一切なく路面はでこぼこ、バイクの後ろに乗せてもらおうものなら、振り落とされないように必死にしがみつかなければならない、決してバイクが猛スピードで走るわけでもないのだが。

それでもここにある Pooda 邸は我々ウサギ小屋に住む日本人からみれば確かに邸だ。前庭があり後庭がある。この後庭、定かでないが 300 坪以上はあろうか。びっくりした、後庭の中央に魚の形をした穴があるのだ。深さ約 2m、体長は 10m はあろうか。驚くなかれこの魚、google earth でしっかり確認できるとききたからだごとではない。Pooda 氏、首都の某ホテルのプールサイドで曰く「来年には俺の庭のプールもタイルを張って水を入れとくからな」さらに庭にはかつて彼が使っていたタワーもある。二階

建て、階下にはラウンジ、食堂、厨房、大きな物置、トイレとシャワールーム、個室が五つ、個室の一つは Pooda 氏の private 用、二階には大ホール、彼はここに絨毯を敷きつめクッションを置き畳ルームと呼んだ。かつて私の家の座敷に座ったときの感覚を再現したのだという。大きな個室が三つ、個室にはシャワーとトイレのついたものも、広いバルコニーと物置、トイレとシャワー一室も。二階へのアプローチは螺旋階段と、日本人には何とも羨ましい豪邸である。

しかし生活となると問題山積。蚊の問題。食堂ではハエの問題、いたる所で床を這い回る小さな甲虫類、水圧が低く真夜中にならなければ満足に水の出ない水道、決して口にできない水道水、目と鼻の先にあるモスクから定時に流れるコーランの大音響。極度の乾燥と高温そして砂塵、、、



イタリアのペディチームとの eye ball QSO

右端はJA3USA島本氏 伊チームに参加

そのように素晴らしさや厳しさが入り乱れる環境のもと我々のアマ無線運用は始まった。Pooda 氏は我々を送り届けて二日目の午後、数日後に予定されているカンファレンスの準備や pedi に来ているイタリアチームの世話もあり首都ワガドグに帰っていった。残されたのは我々日本人四名と Pooda 氏が用意してくれた現地世話係五名、内訳は料理人、便利屋さん

とでも呼ぼうか何でも簡単にこなすことのできる屈強な男子二名、豪邸の番人、そして通訳にと英語のできるボゴ在住の青年医師、その他に日本ブルキナファソ友好協会が手配してくれた運転手一名の計六名。しかし知らない間に数名の現地人が加わっていることも。どの顔も黒光り、皆すらっとしてメタボなど知らない人物ばかり、同じような衣類を身にまとい区別すら難しい。

この様な環境のもと事件は Pooda 氏が現地を離れた翌々日に起った。深夜から翌朝にかけての間に私の貴重品がごっそり無くなったのだ。パスポート、現金、ノートパソコン、USBメモリー、デジカメ、現地で調達した携帯電話、アイポッド。

パスポートはコピーし、予備の写真を持ち、カード類は別にするなど、海外でのセキュリティも一応の常識を持っていたにも関わらず全くの不覚であった。何せ知人のお宅という潜在的安心感がスキを作ってしまったに違いない。

その日の午後十時、明日の食糧買付のための現金をコックに支払うため全員が食堂に集まった。私も現金の入ったウエストポーチを持ち支払を済ませた。その場には恐らくすべてのスタッフが顔を連ねていたように記憶する。翌日の予定など話をしてコック、ドライバー、日本人スタッフ4名は夫々の個室に、ガードマンは一階ラウンジに引き下がった。その他のスタッフは夫々帰宅していったように記憶する。私はしばらく自室の Rig の前にいたが、パスポート、現ナマ、デジカメ、アイポッドの入ったポーチは衣類で巻いてベッドの枕元に、ノートパソコンは常にベッドの足元に置き、数日後のカンファレンスに備えて開いたり閉じたりしていた。

自室に出入りする扉は二面、何れも同軸が

走り、正しくは閉まらない、ましてや自室を出るときに施錠するなどの発想は全く無かった。窓は二面、広大な後庭に面する二階で外部からは容易に侵入できそうにない。

日付の変わるころ 15 分もかからなかったと記憶するがシャワーのため部屋を離れ階下に降りた。この時、ポーチは衣類に巻いて枕元の位置のまま、、、甘いね、金目のものはトランクに、当然施錠もすべきだった。シャワーから帰室後、特に確認もせず爆睡、ベッドは広いものの足元のパソコンをけり落とさないようにと思いつつ眠りに落ちたように記憶するのだが。

爆睡は翌朝 5 時前から始まるコーランで破られた。洗面は自室ですませ直ちにノートパソコンを開きカンファレンスのおさらいを。しかし、この記憶は定かでない。確か日課ではこのような運びになっていたのだが。その後、午前 9 時の朝食まで運用を続けるのも日課だった。定刻 9 時お呼びがかかり全員食堂に。料理人によって毎朝調達される細めのフランスパン、バターに紅茶にコンデンスミルク、新鮮なマンゴウは実に美味しく我々の口にあった。XT 初訪問の二人も当地の過酷な環境に次第に順応し食事時も徐々に賑やかさを増しつつあった。日本から持参した餅ときな粉を調理人に示し言葉の壁を乗り越え雰囲気はこの上なく良好であったのだが、、、

食事後、各人はシャックに戻り運用に励む。約 1 時間はしたのだろうか。今日の献立と買付のことで再度招集がかかった。

ここで不幸な事件が発覚した。現金がいるかも知れないと枕元にあるはずのポーチを探すが見つからない。えっつ!!! 慌ててトランクの中を引っ掻き回すがあろうはずがない、今回は、はなからそこに入れる習慣が無いのだから。

大急ぎで各室に散らばった各人にその事を告げる。日本人四名が私のシャックに駆け寄りあちこち探し回るが見つかるはずもない。どこかに置き忘れたというような単純なことではないのだから。各々が自分の部屋に駆け戻り所持品の確認をする。幸い事故は私の部屋のみのようなのだ。大騒ぎをしているところに通いの面々も集まってくる。

そこで実に奇怪なことが起こった。コックが問題のウェストポーチと小物入れを持ってきたのだ。びっくりしたような形相で厨房の流しの下の小物入れから出てきたと言うのだ。黒いポーチには少し砂がついていたように見えるが中には何と私のパスポートだけが残っているではないか。小物入れには殺虫剤などを入れていたがそんなものが無くなるはずはない。ただその中からコックが携帯電話のSIMカードを見つけて差し出した。私など何の事かさっぱり理解できずパスポートがあったことだけで頭がいっぱいというか、一瞬、安堵したようにも感じたのだが、SIMカードを残し携帯だけを持ち去る手口は相当のツワモノの仕業ということらしい。

昨夜この居宅に滞在したのは、このコック、ガードマン、ドライバーの三現地人と我々日本人四名である。ドライバーは首都ワガドグに団長を迎えるため、早朝に現場を離れ、事件発覚時には既に不在であった。外部侵入者は家屋の構造上考えにくいとなると、考えたくもないがどうしても現地人三名が、ということになってしまう。実に怖いことだ。

私が見た三名の行動パターンは次のようなものである。

ガードマンは真夜中近くに毎日、二階のベランダ、畳ルーム周辺を見回り、ベランダの消灯をする。午前 5 時ごろ、建物の周りを一巡し点

検するような行動をとる。

コックは普段からヘビースモーカーのように見かけた。二階に上がってきたことは終ぞ見かけなかったが事件発覚の朝、螺旋階段の二階上がり框に灰になったタバコの吸い殻を見かけた。しかし、その吸い殻はいつの間にか消えていた。

ドライバーは事件発覚の早朝、現場を既に離れ、車でワガドグに向かったが、数日前のある時、ハッと気が付くと音もなく私のシャック入口のドアのところに立っており、入りもせずゆっくりあたりをみまわし立ち去った。

私が彼らの行動で記憶するのはこのようなことぐらいしかない。

情報は直ちに首都ワガドグにいる Pooda 氏と日本ブルキナファソ協会事務局に報告され、その日の午後、ボボ警察から若い警官と称する男の訪問を受けた。しかしこの男、現地スタッフを一堂に集め、何やら話はしてはいたが 30 分もしないうちに立ち去った。被害者の私は全く蚊帳の外だった。

理屈は如何にあれ言葉も全く通じない異国の地に私が居ること自体無謀であり、無力であることは当然といえば当然、反論の余地など全くない。むしろ五体満足で居られることだけでも幸いとしなければならないのだろう。

その夜、遅れて入国された団長の指示により、翌朝、この街の警察本部に盗難届を出すことになった。後にこの盗難証明が有効に働き帰国後しばらくして現金以外の全てのものが弁済された。

その日の午後、団長が到着され正式に警察に告訴することになった。直ちに本署の刑事と思われる年配の男が部下を連れて来訪した。事情聴取は現場となった私のシャックでおこな

われた。勿論仏語で行われるため青年医師が通訳してくれた。相当丁寧に聴取はおこなわれ、部下がメモはとっていたが、あたりをあちこち見渡すのみで、写真を撮るわけでもなく、指紋を採取するわけでもなく、二、三十分もすると立ち去った。ただ直後に、日本人以外の関係者全員が出頭を命じられ、署内で相当長時間にわたる聴取を受け、コックとドライバーが拘留を命じられた。コックの拘留は比較的短期間ですんだと聞いたが、ドライバーの拘留はその後も長期にわたり続けられたと聞く。

何十年も昔、わが家が就寝中に盗難に遭った時の日本の警察の行動、家具や扉のいたるところを指紋採取のため真っ白にし、家中写真を撮りまくった記憶に比べると、今回の現地警察の捜査は聴取一本やりでありにも簡素、一抹の不安を禁じ得ない。

盗難事件があって良からう筈はないが、私自身の平和ボケが引き起こしたと云っても過言ではないこの事件、善意で集まった現地の人々が身に覚えのない事情を聴取されたり、拘留されたりしているのではないかと考えると、何とも身の置き場の無い不安な気持ちになることしばしばである。



隊員とサポートメンバー

JH3AEF JA3IVU JA3VWT JA1CJA JO3FIA

帰国して数週間、お山で禊でもと、思い立って白馬八方尾根にスキーに出かけた。学生時

代には定宿があり、春夏秋冬足しげく通った思い出の地である。確か社会人になってからも無理して手に入れた“いすゞベレット 1600GT”にチェーンを巻き、大雪の中、15 時間もかけてようやく細野に乗り込んだこともあった。青木湖畔ではどえらいスリップをして車をぶっつけてしまったことも。今はどうだ。昼まで仕事をしても明るい内に細野に着くことができる。時代は変わったものだ。それでも遠見尾根の奥に連なる雪煙舞う白馬三山の稜線はあの頃と寸分変わらず私を迎えてくれた。当時中学生だった定宿の岳ちゃんも、早苗さんも、小学生だった雪ちゃんも、それぞれお孫さんのある立派な宿のご主人におさまっていた。宿の前で雪かきをしていた岳ちゃんを見つけ、車を降りて「大阪の」まで切り出す前に「東條さん」と帽子をとって手を差し出した。四人で囲んだ食卓では昔懐かしい話が次から次に、良くまあそんな事まで覚えているものだと開いた口が塞がらなかった。一番こたえたのは早苗さんのひとこと「山から帰ってきた時の東條さん、鼻からデレーンと鼻水を垂らして、帽子からツララを下げて、大きなザック雪だらけにして、アー、山へ行く人はカッコ悪いと思った」とか。

翌日は快晴無風、朝飯もそこそこに一寸発奮して全山共通一日リフト券を買って腕に巻き意気揚々と宿をでた。何十年経とうが方向感覚に狂いはない。ゴンドラ乗り場に直行、リフトを乗り継いで八方リーゼンコースの最上部へ。学生時代でもリーゼンを一日に5本滑るのは相当の「つわもの」といわれた難コース。まあ気負わずにゆっくり下りましょう。浦島太郎よろしくキョロキョロしながらどンドン下る。結構暑い。昔に比べるとコースは拡張され、整備され何とか滑れるではないか。調子に乗ってもう一本。午前

中に二本も滑れるとは意外や意外。これならともう一度ゴンドラに。もう体中汗ビッシヨリである。

一寸早いゴンドラ頂上駅にある兎平レストハウスで昼飯に。50年前もこのレストハウスは一寸ハイカラで、関東から来たカッコいいお姉さん達がボルシチを旨そうに食うのを横目に、我々は宿で作ってもらった野沢菜入りの冷たいおにぎりを食べたものだ。今も同じ場所に同じように建つレストハウスだが規模も大きくなり、全く近代的なものに変っている。時間は早いけど昼時でも座席の確保に窮することもなく実に快適だ。話し声から察するに、向こうの席では北欧からの家族連れと思しきグループが兎平に設けられたモーグルコースを滑る連中の姿を見ながら何やら盛んに話し込んでいる。日本のスキー場もインターナショナルになったものだ。快適なエアコンと外から差し込む陽光にヤッケを脱ぎ、セーターも脱ぎ、帽子もとってゆっくり昼飯にありついた。

丁度正午、昼飯客で込む前にとレストハウスを出る。今度は昔なかったパノラマコースへ。気温が上がって雪の重くなったコース下部を避け、コースの途中からリフトを利用して再度兎平に戻る予定でリフト乗り場に滑りこんだ。

と、ここで大問題発生。腕に巻きつけていた全山共通一日券が見つからない。左の腕？右の腕？ヤッケのポケット？ズボンのポケット？雪の上でスキー靴を履き、板をつけでは裸になって探すわけにもいかない。仕方無い。麓まで滑り降り、一旦宿に戻り裸になって探すより方法はあるまい。一気に滑り降りる。計画どおり宿で裸になって探すも見当たらない。ここまでして見つからなければどこかで落としてしまったのだろう。さっぱり諦めて共通一日券をもう一枚。



優しく迎えてくれた白馬三山

岳ちゃん曰く「悪かったね、東條さん」さてさてゴンドラ乗り場に直行。4本目のリゼンを滑るべく兎平へ。駄目もどと思いつつも未練たらしくレストハウス一階のインフォメーションセンターに。

「そのようなお届けはありません」そりゃそうや はな！

二階のインフォメーションセンターにも。こちらも同じ回答が。

聞くほうがアホやったか。

ハウス内は昼前に比べると人でいっぱい。足は無意識のうちに昼飯を食ったテーブルへ。当然のことながら誰かが腰かけてお茶の最中のようだ。

だが待てよ、テーブルの隅にケースに入った共通一日券が！！！！

ツカツカと駆け寄って「あの一、この切符、、、、」

お茶をしていた彼氏、相棒と相槌を打ちながら曰く「ああ、この一日券、私の来る前からここに おいてありましたよ、、、、」

あれから何人の人がこのテーブルに座って食事をしたりお茶をしたりしただろう。

余分に払うことになった切符代のことなどすっかり吹っ飛んで気分爽快！！！！

素晴らしきかな日本。

庶務とMARS ニュース

入・退会、コールサイン、住所の変更などの事務手続きはMARS事務局へ。

(事務局)

〒175-0092 東京都板橋区赤塚4-17-11

井上医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 03-5968-5777

F A X 03-5968-5778

E-mail fumimasa@cb3.so-net.ne.jp

MARS ニュースへの御寄稿は、

〒640-8331

和歌山市美園町5-1-8山榮ビル3階

眼科田中クリニック内 MARSニュース編集部

電話 073-427-3010

F A X 073-427-2135

E-mail marsnews@tanakaclinic.jp

まで、お送りください。

パソコン(またはワープロ)の場合、再入力の手間を省くため、フロッピーディスクもしくはCD-Rの郵送、またはE-mailでお送りください。特殊記号などが文字化けすることがあり、プリントアウトした原稿もファックスまたは郵送してください。

手書き原稿もOKですが、なるべく上記の方法でお願いします。

写真は紙焼きの郵送でもE-mailでも結構ですが、高画質画像をMOまたはCD-Rに保存してお送り下されると、さらにFBな仕上がりになります。なお、紙面の都合により、原稿を短縮させていただいたり、写真の選択やトリミングをさせていただくことがありますので、ご了承ください。

Call Bookの改訂に 際しての ご協力をお願い

前は平成17年3月にコールブックを発行させていただきましたが、その後年月を経て会員の異動や住居表示の変更がございます。

来年春を目途にコールブックを改訂して再発行する予定でございますので、今回同封させていただきました『Call Book2014年版掲載内容確認書』にご記入の上、平成25年10月30日までに、眼科田中クリニック内MARSニュース編集部までFAXでご返信いただくか、メールへのファイルの添付もしくはメールの本文に必要事項をご記入の上marsnews@tanakaclinic.jpまでE-mailにてご連絡ください。

仙台総会のエクスカーシオンバス内で更新情報をお知らせいただいた局も、お手数ですが再度ご返信をお願いいたします。

日本医師アマチュア無線連盟会報 (第73号)

発行：日本医師アマチュア無線連盟

発行日：平成25年10月7日

編集：田中憲児(JF3JON)

印刷：西岡総合印刷株式会社

Tel073-425-1341 Fax073-436-0855

URL <http://www.nishioka.co.jp/>

E-mail info@nishioka.co.jp